

令和4年10月20日  
(2022年)

第三学年保護者の皆様へ

吹田市立第三中学校  
校長 和田幸洋

## 令和4年度 全国学力学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学と理科に限られます。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査結果の分析

#### 国語

##### 《結果の概要》

- ・学習指導要領に示されている「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」に基づき、全体を視野に入れながら出題されていた。
- ・「知識及び技能」の領域では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱いに関する事項」の問題は全国値をやや上回った。「我が国の言語文化に関する事項」の問題は全国値をやや下回った。
- ・「書くこと」の領域では、記述式の問題は全国値を上回ったが、無解答率が高かった。
- ・「読むこと」の領域では、すべての問題で全国値をやや上回ったが、記述式の無解答率は高かった。

##### 《課題と今後の取組》

- 「知識及び技能」の領域では、漢字を正しく書くことはできているが、語句の意味や文法の理解に課題があるので、語彙を増やしていくこと、文法の復習をしていくことが必要である。
- 「話すこと・聞くこと」の領域では、論理の展開に注意して聞くことや自分の考えが分かりやすいように表現を工夫して話すことに課題がある。「書くこと」の領域では、

資料から必要な情報を引用し、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。「読むこと」の領域では、場面の展開や登場人物の心情を読み取る、内容の解釈はできている。

- 記述式の問題の無解答率が高かったことから、自分の考えを表現していく指導が必要であるとする。自分の考えをもつためには、普段の授業から、自分が理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりすることが必要であるので、そのような活動を取り入れていく。また、自分の考えを相手に伝えることができるように、目的や意図に応じて読みやすく分かりやすい文章を書く活動を取り入れていく。

#### 数学

##### 《結果の概要》

- ・調査の内容としては、学習指導要領における、「数と式」が5問、「図形」が3問、「関数」が3問、「資料の整理」が3問と各領域についてバランスよく出題されていた。
- ・「関数」の領域では、ほぼすべての問題で全国値を上回ったが、300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する問題では、全国値を下回った。
- ・「数と式」の領域では、ほぼすべての問題で全国値を上回ったが、42を素因数分解する問題では、全国値を下回った。
- ・「データの活用」の領域では、ほぼすべての問題で全国値を上回ったが、「箱ひげ図」の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ問題では、全国値を下回った。
- ・「図形」の領域では、ほぼすべての問題で全国値を上回ったが、ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ問題では、全国値をやや下回った。
- ・無回答率は全国値を下回った。
- ・記述式の問題の正答率は、全国値を上回った。

##### 《課題と今後の取組》

- 問題文を正確に捉えているかを理解しているかを確認する問題の正答率が低いことから、授業やテストの中で用語の定義を確認、復習していく。
- 全国の正答率を上回ってはいるが、筋道を立てて説明したり、証明したりする問題は正答率が低かったので、振り返りを丁寧に行い、論理的に説明する力を育む。

#### 理科

##### 《結果の概要》

- ・「エネルギー」を柱とする領域が6問、「粒子」を柱とする領域が5問、「生命」を柱とする領

域が5問、「地球」を柱とする領域が6問と各領域が均等に出題されていた。

- ・「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域では、全国値を上回った。
- ・「生物」を柱とする領域では、全国値をやや下回った。
- ・「地球」を柱とする領域では、全国値をやや上回った。
- ・知識・技能に関する設問が7問、思考・判断・表現に関する設問が14問出題されていた。
- ・知識・技能に関する設問では、全国値を上回った。
- ・思考・判断・表現に関する設問では、全国値とほぼ同じであった。
- ・選択式が15問、短答式が1問、記述式が5問出題されていた。
- ・選択式の設問では、全国値をやや上回り、短答式の設問では、全国値を上回り、記述式の設問では、全国値をやや下回った。
- ・「生物」を柱とする領域の5問のうち、4問が記述式であったため、「生物」を柱とする領域及び、記述式の設問の項目について全国値をやや下回った。
- ・全ての領域において、選択式の設問に関しては無回答の生徒はいなかった。

### 《課題と今後の取組》

○記述式の設問に関しては、主に「生物」を柱とする領域であることから、身近な生物の観察などを行っていく必要がある。観察したものを分類・比較する力を高めていく必要がある。また、文章で回答する際に、主語がなかったり、曖昧な表現になっているので、日々の学習から表現の方法について指導していく必要がある。

○選択式の回答において、一度回答した設問に関して、試験時間中も含めた「見直し」の習慣を身につけさせる必要がある。

## 「生徒質問紙」に関する調査の結果

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査である。質問は全部で69問であったが、ここでは特徴的な結果が出た質問に関してのみ取り上げている。

### 《基本的な生活習慣》

- ・「就寝時刻がいつも同じであるか」という質問においては、全国値をやや上回ったが、「起床時刻がいつも同じであるか」という質問においては、全国値とほぼ同じだった。

### 《家庭生活》

- ・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」に対する肯定的回答率は、全国値を上回った。
- ・「普段、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」という質問においては、2時間以上と回答している生徒の割合は全国値をやや上回っている。

### 《家庭学習等》

- ・「学校の授業時間以外に、普段どれくらいの時間勉強していますか」「学校が休みの日に1日あたりどれくらいの時間勉強していますか」という質問においては、2時間以上と回答している生徒の割合は全国値をやや下回っており、1時間より少ないと回答している生徒の割合は全国値を上回っている。

### 《学校生活・学校での学習状況》

- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的回答率は全国値をやや下回っている。この課題解決のために「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」との認識が一層高まるよう、トリプルチェンジ(いじめ予防授業)を通して、今まで以上に相手の立場に立って考えることを一緒に考えていく必要がある。
- ・「コンピュータなどのICT機器を使用し、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」に対する肯定的回答率は全国を下回っている。現在、多くの教員がICTを活用して授業を展開しているが、さらに個に応じた活用や探求心が養われるようなICT活用した授業研究を学校全体で進めていきたい。

### 《自尊心》

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的回答率は全国値を下回っている。学校生活において、相手の良さを見つけ、他人の支えになる思いやりのある生徒の姿はよく見られるが、生徒自身が自己評価するうえで過小評価になっている。そんな中で、これまで以上に学校と家庭が連携し、子どもたちの自己肯定感を高めるために、日常生活の中で、人とのかかわりや達成感、自己有用感を感じることが出来る機会をより多く持たせていきたい。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」という質問に対しては、肯定的な解答が全国値を上回った。学校生活における様々な活動の中での成功体験があったり、上手くいかなかったとしても、その中で達成感を感じ取ることができている。

## 2. 今後の取組みについて

今回の調査によって判明した課題点は、本校の教育活動全体の工夫・改善に大いに参考となる資料ととらえ活用いたします。そして、「学習する喜びと意欲を養い、確かな基礎学力をもった生徒を育てる」という本校の重点目標の推進に生かすよう取り組みを進めてまいります。

ご家庭におかれましても、学習活動の基盤となる基本的な生活習慣(早寝・早起き、規則正しい食生活、家庭学習の定着など)の確立やお子さまの成長にとって不可欠なさまざまな生活体験を通して、「生きる力」を育んでいただきますようお願いいたします。今後も家庭と学校と密接に連携を図りながら、教育活動を進めていきたいと思っておりますので、ご理解ご協力よろしくをお願いいたします。